

# 万博公園探鳥会 07年度の記録

(07年4月～08年3月)

2008年3月31日

①万博探鳥会07年度実績

②07年度探鳥会報告

③07年度探鳥会全データ

④01年～07年 観察回数

⑤01年～07年 年間観察種数

⑥01年～07年 冬鳥&ツグミの推移



ツグミ(冬鳥の定番鳥)

集約 吹田野鳥の会／日本野鳥の会大阪支部

協力 (独)日本万国博覧会記念機構

## ①万博探鳥会 07 年度実績

- 主催 (財) 日本野鳥の会大阪支部
- 定例開催日 毎月第 2 土曜日  
9 : 30 自然文化園中央口集合  
15 : 00 頃日本庭園東側で終了解散
- 探鳥会回数 13 回  
基本的には月 1 回。  
11 月のみ定例会のほかにバードウォッチング・ウィーク探鳥会(11/3)実施により 2 回開催。
- 探鳥会で観察した鳥 59 種 (06 年 59 種)  
毎回の観察種 20~38 種  
年平均 29.5 種/回 (06 年 31 種)
- 探鳥会参加者数 763 人 (06 年 771 人)  
毎回の参加者 10 人~103 人  
年平均 59 人/回 (06 年 59 人)

# 207年度探鳥会報告

月/日	観察種数	参加者数	天候	コメント
4/14 5/12 6/9	36 26 20	74 88 54	晴 晴 曇後雨	<p>(4月)花吹雪の中、探鳥会としては初認のニューナイスズメがソメイヨシノに、コナラの花にはマヒワ、ハルニレの実にイカル・アトリ・カワラヒワ・シメがいました。</p> <p>(5月)春の渡り鳥のセンダイムシクイ・オオルリ・コチドリ、更に、鳥合わせ時にコサメビタキ2羽がでた。日本庭園で飛べないオシドリ♀に♂が付き添っていた。</p> <p>(6月)カワセミ、そしてシジュウカラ・カワラヒワのさえずりを堪能したが、予報通り土砂降りの雨と雷、しかし昼食後、雨がやんだので再開、抱卵中のカイツブリをゆっくり観察した。</p>
7/14 8/11 9/8	20 24 27	10 42 49	雨 晴 晴	<p>(7月)雨が降り続いていて人気(ひとけ)のない園内は鳥たちの世界。7羽の雛を連れ駐車場を移動するカルガモ、ヘルパー行動のカイツブリ幼鳥をゆっくり観察した。日本庭園心字池では雨で水かさが増し、カイツブリ夫婦が必死に巣の補強をしていたが、30分後に戻ると巣が水没し無くなっていた。</p> <p>(8月)かんかん照りの真夏日、蝉の声に消されて鳥の声はほとんど聞こえなかったが、サギ3種、カモ2種、カワセミなど水辺の鳥、そしてオオタカも飛びこの季節としては多い24種となりました。</p> <p>(9月)コサメビタキが何回も、万博では珍しいコチドリ・イソシギのツーショット、更にツツドリSPが2回も飛ぶなど、秋の渡りが始まっていた。サンゴジュの実に集まるメジロ、シジュウカラ・エナガの混群、万博で繁殖するようになったハクセキレイなど留鳥もまざまざだった。</p>
10/13 11/3 11/10 12/8	30 29 32 36	77 42 69 93	晴 晴 晴 晴	<p>(10月)有名歌手出演の野外コンサートで芝生広場は立ち入り禁止の悪条件にもかかわらず、スタート直後にノスリ、途中でハチクマ、そしてキビタキ・コサメビタキなど渡りの小鳥やカワセミも出て、トータル30種となった。</p> <p>(11月BWW)快晴の行楽日和、エナガ・シジュウカラ・コゲラ・メジロなどの留鳥、秋の渡りのメボソムシクイ、万博としては過去最高10羽もカウントした冬鳥のジョウビタキなど、鳥も良く出てくれた。</p> <p>(11月定例)2週連続探鳥会では、先週見なかったツグミ、ノスリ・ハイタカなどのタカの仲間、先週と同様ジョウビタキとカワセミが出て参加者の歓声を浴びた。</p> <p>(12月)昨年12月に119羽カウントしたツグミが1羽のみ、昨年197羽のアトリも約30羽、シロハラ・シメ・ルリビタキも1羽と、楽しみにしていた冬鳥は少なかった。</p>
1/12 2/9 3/8	38 30 35	24 38 103	曇&雨 雪 晴	<p>(1月)太陽の広場にツグミが多くトータル52羽、上の広場でアトリ50羽、下の広場でシメ7羽など冬鳥が増え、カワラヒワ・ムクドリなど留鳥の群や、万博では少ないカモもヒドリガモが51羽の新記録など、個体数が多かった。</p> <p>(2月)探鳥会が始まるころから本降りになった雪は最後まで止まず、芝生の上に10cm近くの積雪となり、鳥たちは餌探しに苦労していた。圧巻は吹雪の中のアトリ・カワラヒワ・スズメの大群、500羽ほどが一緒に地上で木の上でアキノレの実をついばんでいた。</p> <p>(3月)快晴で探鳥会参加者は久しぶりで100人を越えた。鳥たちも思いのほか良く姿を見せ、ハチジョウツグミは先月とほぼ同じ所、ツグミは園内あちこちにおいて数が多く、アトリ・ルリビタキ・ジョウビタキなどの冬鳥や、カワラヒワ・カワセミの留鳥が何回も姿を見せた。さらに歓声を浴びたのはトラツグミ、数m~10mほどの距離で100人近い人に囲まれながら、恐れる様子もなく悠然と餌を探していた。</p>

# ③07年度探鳥会全データ - ①

	4	5	6	7	8	9	10	11	11	12	1	2	3	観察回数	
	14	12	9	14	11	8	13	3	10	8	12	9	8		
1	カイツブリ	3	4	1	○	7	4	3	5	5	4	4	1	2	13
2	カワウ	3	5	1	○	4	1	1	6	2	1	1	1	1	13
3	ゴイサギ					1					2				2
4	ダイサギ		1												1
5	コサギ	2		1	○	1	1	1	2	1	2	2	1	1	12
6	アオサギ	2	1	1	○	1		1		1	3	2	1	1	11
7	オシドリ	2	2												2
8	マガモ	2			○	4	4	2	3	3	6	11	9	4	11
9	カルガモ	16	3	3	○	4	12	16	4	12	19	20	18	6	13
10	オカヨシガモ											1			1
11	ヒドリガモ										9	51	28	10	4
12	ハチクマ							3							1
13	トビ													1	1
14	オオタカ	1			○	1			1	2	1	1	1		8
15	ハイタカ									2	2	1		1	4
16	ノスリ							2		1					2
17	バン	1	1					2	1		4	4			6
18	コチドリ		2					1							2
19	イソシギ							1							1
20	ユリカモメ											4			1
21	キジバト	5	3	3	○	1	4	4	2	2	4	13	4	9	13
22	アオバト												7		1
23	ツツドリ						2SP								1
24	カワセミ	2	1	2	○	1	3	1	4	3	2	3	1	4	13
25	コゲラ	4	3	2	○	1	2	4	4	7	2	2	3	4	13
26	ツバメ	7	9	10	○	2	5	1							7
27	キセキレイ						1	2	5	3	3	2	1	3	8
28	ハクセキレイ	1		1	○	7	9	11	11	14	26	19	3	12	12
29	セグロセキレイ	2	2	1	○	3	4	2	2	3	3	2	1	1	13
30	ヒヨドリ	24	12	6	○	4	12	43	38	49	52	48	12	16	13

# ③07年度探鳥会全データ - ②

		4	5	6	7	8	9	10	11	11	12	1	2	3	観察回数
		14	12	9	14	11	8	13	3	10	8	12	9	8	
31	モズ							2	1	1	1	2		1	6
32	ルリビタキ										1	1		5	3
33	ジョウビタキ								10	6	3	2	1	6	6
34	トラツグミ													1	1
35	アカハラ	1													1
36	シロハラ	5									1	3	2	3	5
37	ツグミ	39								2	1	52	28	71	6
38	ウグイス	1							1	3	6	1		2	6
39	メボソムシクイ							1	1						2
40	センダイムシクイ		1												1
41	キビタキ	1						1							2
42	オオルリ		1												1
43	コサメビタキ		2				5	5							3
44	エナガ	7	7			2	11	6	12	29	5	12	12	11	11
45	ヒガラ											2			1
46	ヤマガラ	2	3	1	○	1	7	7	2	9	3	4	1	1	13
47	シジュウカラ	15	25	5	○	1	13	13	12	5	6	8	3	5	13
48	メジロ	14	7	5	○	16	21	12	30	34	27	10	2	3	13
49	アオジ	4							3	3	4	4			5
50	アトリ	28									30	62	200	6	5
51	カワラヒワ	18	12	3		2	3	5	15	53	38	73	200	39	12
52	マヒワ	7													1
53	イカル	14					4			1				22	4
54	シメ	3							1	3	1	15	30	16	7
55	ニューナイスズメ	8													1
56	スズメ	21	41	20	○	20	36	22	42	35	36	96	100	21	13
57	ムクドリ	18	7	39		11	8	6	1	22	5	119	18	18	12
58	ハシボソガラス	7	16	21	○	4	13	17	19	58	14	12	5	6	13
59	ハシブトガラス	23	14	4	○	24	15	18	27	28	12	5	29	50	13
種数計(一回当)		36	26	20	20	24	27	30	29	32	36	38	30	35	383
個体数計(羽)		313	185	130		123	202	214	265	402	339	674	723	363	3933
探鳥会回数		286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	297	59
天候		晴	晴	曇後雨	雨	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇時雨	雪	晴	
参加者数		74	88	54	10	42	49	77	42	69	93	24	38	103	763

## ⑤01年～07年度 観察回数

01年～07年探鳥会は90回、7年間で見た鳥は97種ですが、観察回数の少ない種と多い種を、リストアップしました。

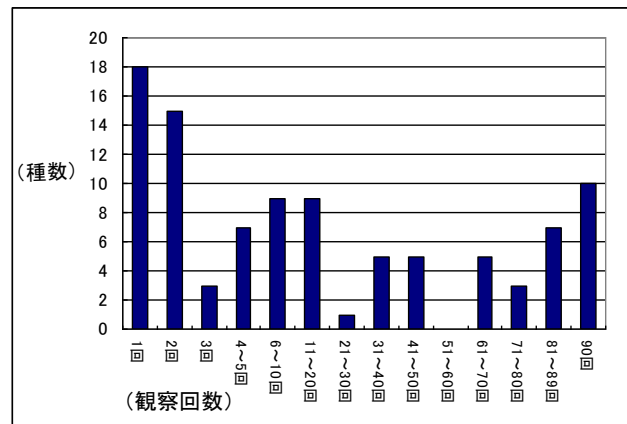
観察回数が少ない種は、万博公園の環境では定住できないか、たまたま移動の途中に立ち寄った種であるのに対し、80回以上の18種は、万博公園に定住している留鳥である。

①**バドグロツグミ** 02/4/13 探鳥会で確認された日本でも珍しい小鳥。日本各地からバードウォッチャーが詰め掛け、カメラの放列が取り囲みました。

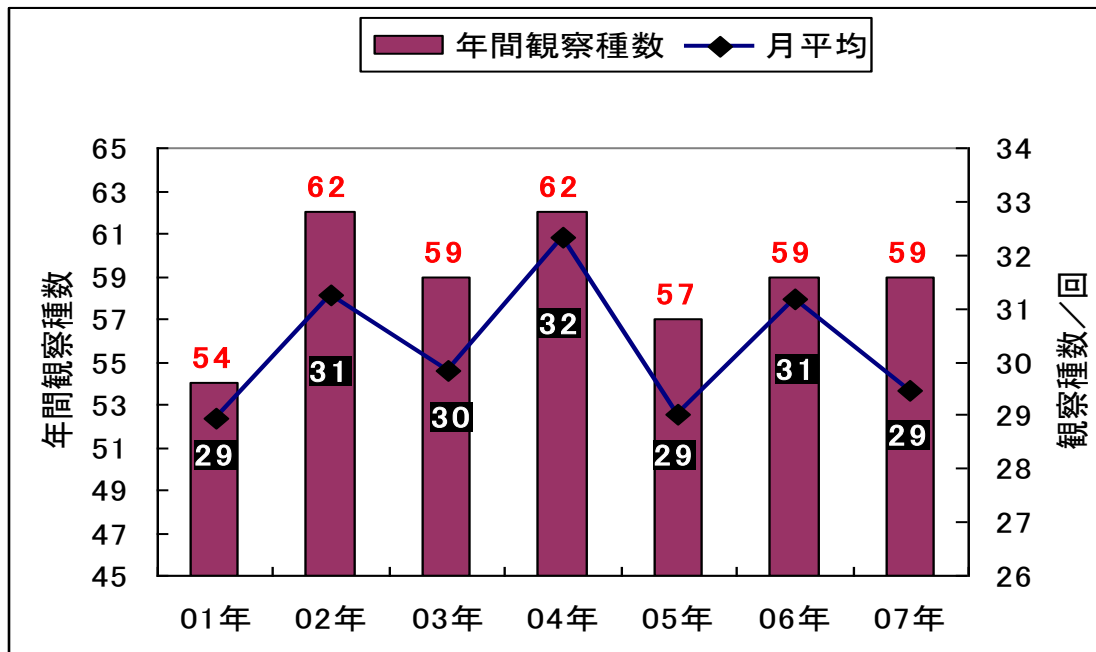
②**ニューナイスズメ** 08/4/14に探鳥会では初めて観察しました。別途報告している春の渡り鳥調査では毎年4月中旬～下旬に毎日、多いときは100羽以上の群を確認していたのに、定例探鳥会で観察していませんでした。毎月開催していても、見逃している種があることを教えてくれた、貴重な例になりました。

③**ハクセキレイ** 万博探鳥会がスタート以来冬鳥であったハクセキレイが、万博公園で繁殖する留鳥となりました。ハクセキレイはユーラシア大陸一円に繁殖地を持つのに対し、同属のセグロセキレイは日本特産種、体の大きさもほぼ同いため、万博公園先住者であるセグロセキレイとの間で両種がどう住み分けるのか、今後の動向が気になるところである。

観察回数の少ない種		観察回数の多い種	
1回	2回	80～90回	
		種名	回数
オナガガモ	ササゴイ	カイツブリ	90
ハシビロガモ	チュウサギ	カルガモ	90
ハチクマ	コガモ	キジバト	90
サシバ	イカルチドリ	セグロセキレイ	90
クサシギ	ケリ	ヒヨドリ	90
タシギ	ヤマシギ	シジュウカラ	90
セグロカモメ	フクロウ	メジロ	90
アカゲラ	アマツバメ	スズメ	90
ショウドウツバメ	ノビタキ	ハシボソガラス	90
イワツバメ	トラツグミ	ハシブトガラス	90
タヒバリ	オオヨシキリ	コゲラ	88
キレンジャク	キクイタダキ	カワラヒワ	88
コマドリ	サメビタキ	エナガ	86
バドグロツグミ	ホオジロ	カワウ	85
クロジ	ウソ	ムクドリ	85
ベニマシコ		マガモ	82
ニューナイスズメ		ハクセキレイ	81
コムドリ		アオサギ	80
18種	15種	18種	



## ⑤ 01年～07年度 年間観察種数



07年のトータル観察種数は59種と、06年と同じであったが、探鳥会1回当たりの観察種数は06年の31種から29種と、2種少なく最低レベルにとどまった。

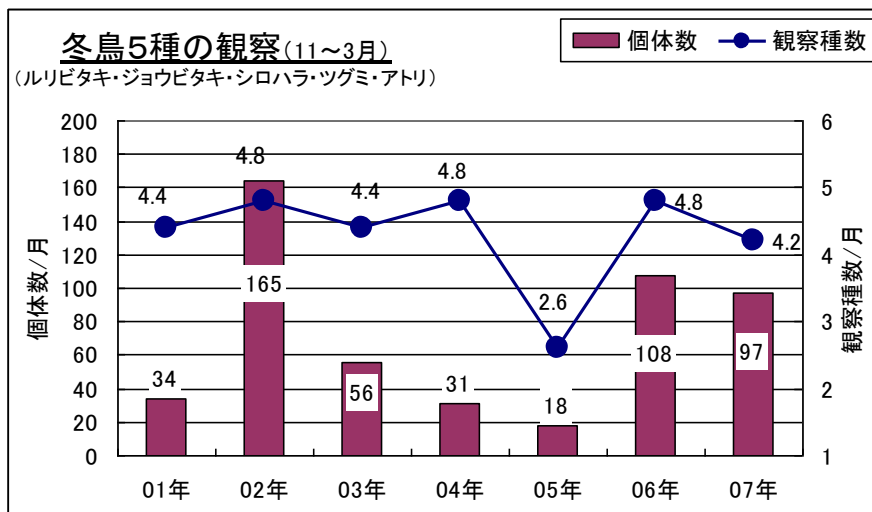
01年からの推移で見ると、年間観察種数、探鳥会1回当たりの観察種数とともに、02年、04年にピークがある。今年1回当たりの種数が少なかったのは、06年に40種観察した月が3回もあったのに対し、今年は最大38種にとどまったことによる。

年間トータル観察種数は春・秋の渡りの小鳥がどれだけ観察できるかが影響しており、探鳥会1回当たりの観察種数は冬鳥が何種定住しているかにかかっている。

07年度の冬鳥は後述のように、ツグミ・アトリを中心とする5種については08年1月に回復したことで、個体数としてはまずまずであったが、マヒワ・ヒガラなどが見られないなど種数としては多くなかった(少ないまま終わった)ことがわかる。

## ⑥01年～07年 冬鳥&ツグミの推移

・**冬鳥5種** 万博公園の特徴は、冬に林の小鳥が多いことにあるが、冬鳥ルリビタキ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・アトリの5種について、個体数推移を見た。



た。02年はツグミ・アトリが多くこの7年間の最大数、05年が最小数となったが、06年・07年はまずまずであった。

・**ツグミ個体数** 冬鳥の定番鳥といえるツグミについて、月毎の観察数をまとめてみた。

05年は11月に観察できなかったなど、春まで少ないままであった。今年07年も11~12月にツグミは少なかった。しかし、年末からはツグミが増え、1月からは増え、カウント数が平均値を超えるようになった。

年度		11月	12月	1月	2月	3月
01年度	01.11~02.3	1	16	20	9	15
02年度	02.11~03.3	62	43	144	35	41
03年度	03.11~04.3	1	◎	34	17	21
04年度	04.11~05.3	12	10	24	22	20
05年度	05.11~06.3	0	7	◎	18	25
06年度	06.11~07.3	79	119	11	17	39
07年度	07.11~08.3	2	1	52	28	71
平均		22	28	41	21	33
合計		157	196	285	146	232

シーズン後半に増えた要因は不明であるが、山々に餌の木の实が多かった年末までは山にいて、木の实がなくなったため山を降りてきたのでないかと推定している。

